

*The Japanese  
Society of  
Toxicology*

**Vol. 51 No. 1  
February 2026**

# 毒性学ニュース

*Toxicology News*

一般社団法人日本毒性学会

The Japanese Society of Toxicology

## 毒性学ニュース

### Contents

---

#### 日本毒性学会からのお知らせ

第 53 回日本毒性学会学術年会のご案内（第 4 報） .....	1
日本毒性学会教育委員会からのお知らせ（第 1 報） .....	6
第 52 回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について .....	8
社員総会開催のご案内と出欠票（委任状）提出のお願い .....	9

#### オピニオン

衛藤氏による「高岡氏への提言」の意味するもの .....	10
------------------------------	----

#### その他のお知らせ

「製薬協主催・第 2 回 バーチャル対照群（VCG）セミナー」開催案内 .....	11
---	----

一般社団法人日本毒性学会の定款および規程類について

---

## 第 53 回日本毒性学会学術年会のご案内（第 4 報）

（年会ホームページ：<https://www.jsot2026.jp/>）

### 1. 会 期

2026 年 7 月 1 日（水）～ 3 日（金）

### 2. 会 場

グランキューブ大阪（大阪府立国際会議場）

〒 530-0005 大阪市北区中之島 5 丁目 3-51

TEL：06-4803-5555

URL：<https://www.gco.co.jp/>

### 3. テーマ

Evolving Toxicology

—多彩な学識の交差点から生まれる知の革新

*Innovation Emerging from the Confluence of Diverse Fields*

### 4. 年会長

宮脇 出

（住友ファーマ株式会社）

### 5. 企画委員（敬称略・五十音順）

上原 孝（岡山大学）

諫田 泰成（国立医薬品食品衛生研究所）

北嶋 聡（国立医薬品食品衛生研究所）

栗林 正伯（小野薬品工業（株））

佐藤 雅彦（愛知学院大学）

篠澤 忠紘（武田薬品工業（株））

鈴木 睦（協和キリン（株））

高橋 祐次（国立医薬品食品衛生研究所）

田口 恵子（東京大学）

角崎 英志（（株）新日本科学）

奈良岡 準（アステラス製薬（株））

中島 美紀（金沢大学）

中西 剛（岐阜薬科大学）

南谷賢一郎（協和キリン（株））

西村 有平（三重大学）

黄 基旭（東北医科薬科大学）

福島 民雄（塩野義製薬（株））

古川 賢（日産化学（株））

本多 正樹（中外製薬（株））

三ヶ島史人（医薬品医療機器総合機構）

水野 忠快（東京大学）

山本 千夏（東邦大学）

吉成 浩一（静岡県立大学）

### 6. 特別企画（予定、仮題、敬称略、順不同）

#### 1) JSOT 第 53 回学術年会サテライト企画

Young Toxicologist Academy —毒性学の実務と研究をつなぐ若手・学生フォーラム—

日 時：2026 年 6 月 30 日（火）13:00～16:00

会 場：グランキューブ大阪 1008（第 4 会場）

#### 2) 第 23 回市民公開セミナー

日 時：2026 年 7 月 4 日（土）10:30～12:00

会 場：梅田スカイビル 36F「スカイルーム 1」

#### 3) 高校生が拓く健康と環境のサイエンスコンテスト

日 時：2026 年 7 月 4 日（土）13:00～17:00

会 場：梅田スカイビル 36F「スカイルーム 1」

#### 4) 年会長招待講演

「免疫研究と臨床応用」

熊ノ郷 淳（国立大学法人大阪大学）

#### 5) 特別講演

・「グリア細胞からみたドパミン神経毒性と神経保護」  
浅沼 幹人（岡山大学）

・「Greener Gastroenterology and Microbiology —  
環境と消化管の接点を求めて」  
内藤 裕二（京都府立医科大学）

・「Strategies to minimize the use of Non-human  
primates in drug development」  
Feyen Bianca（J&J Innovative Medicine）

#### 6) 教育講演

・「毒性学の役割 難しさと面白さ」  
菅野 純（国立医薬品食品衛生研究所）

・「Personal perspectives on the FDA roadmap  
for the New Alternative Methodologies (NAMs)  
for nonclinical safety and efficacy assessment  
during drug development」  
Saryu Goel（Former FDA reviewer）

## 7) シンポジウム

- ・ アデノ随伴ウイルスベクター製品の安全性評価の考え方
- ・ 新奇な代謝反応が関わる医薬品毒性研究の最前線
- ・ 学術小委員会：次世代研究セミナー
- ・ 学術小委員会：キャリア形成支援プログラム
- ・ Cutting-edge in silico - 毒性領域への応用
- ・ 免疫介在性肝障害研究の現在地
- ・ 【日本中毒学会合同シンポジウム】 子どもの中毒学・毒性学
- ・ Utilization of DDT/NAMs in Pharmaceutical Development in Japan: Current Status and Challenges
- ・ アカデミア・企業におけるデータインテグリティ (DI) 最前線
- ・ フォワード／リバーストランスレーショナルリサーチによる医薬品安全性研究の実践【第2章】～製薬企業の挑戦と進化～
- ・ 生体金属に関連した毒性学研究の最新動向
- ・ 【KSOT-JSOT Joint Symposium】  
New developments in safety assessment using New Approached Methodologies (NAMs)
- ・ 新モダリティの生殖発生毒性評価
- ・ 新薬における非臨床安全性パッケージとそのプロフィール
- ・ 付加体を形成する化学物質による生体および環境影響
- ・ システム毒性学とセレンディピティ
- ・ 非侵襲的手法を用いた in vivo 毒性評価の現状
- ・ 我が国における PFAS 研究：現状と課題
- ・ マイクロプラスチック研究に関する日化協の取り組み
- ・ 毒性試験における実験動物としての小型魚類（ゼブラフィッシュ／メダカ）の有用性
- ・ Non-clinical development of gene therapy and its toxicity to be considered
- ・ 毒性マーカーとしての繊毛の可能性
- ・ PFAS の毒性学に寄与する多様な研究
- ・ リアルワールドデータ×人工知能で切り拓く次世代ファーマコビジランス
- ・ 毒性をかたちづくる化学的・生物学的スイッチ
- ・ 新たな計測技術とデータサイエンスが切り開く毒性学の可能性
- ・ 小児用医薬品の安全性確保に向けた非臨床評価法の開発

- ・ 【HESI Joint Symposium】 Global Trends in NAMs Toward Regulatory Acceptance
- ・ 【SOT-JSOT Joint Symposium】 Advances in Hepatotoxicity Research
- ・ 【日本内分泌攪乱物質学会合同シンポジウム】 子どもの毒性学－脳の可塑性の根幹事象としてのシナプス刈り込み（synaptic pruning）の分子機序と実影響
- ・ 製薬企業におけるFDA Modernization Act 2.0/3.0 に対する取り組み
- ・ 抗体医薬品やニューモダリティ類の不純物評価と管理
- ・ Emerging Safety Biomarker Qualification Strategies Towards Regulatory Acceptance
- ・ バイオ医薬品の免疫原性評価の現状と将来展望
- ・ 【日本毒性病理学会合同シンポジウム】 病理学的知見を活かした毒性評価の考え方
- ・ NAMs による全身毒性評価の最前線
- ・ 【日本薬物動態学会合同シンポジウム】 毒性に貢献する薬物動態研究
- ・ 環境毒性学の次世代 NAMs：分子からシステムへ
- ・ アジア招待企画

## 8) ワークショップ

- ・ 毒性評価者の育成課題－動物使用経験の欠如が引き起こし得る問題
- ・ 創薬毒性研究におけるデジタル技術活用 ～世の中のナレッジを新たな創薬に活かす～
- ・ 急性毒性試験の再定義：死亡に依存しない評価系の構築とその可能性
- ・ 安全性薬理研究としての未来
- ・ 医薬品開発における精巢毒性評価
- ・ 毒性質問箱：短期間の反復投与毒性試験では見逃される毒性の実例とその影響
- ・ 医薬品開発における薬物依存性評価の最前線と展望
- ・ 若手企画ワークショップ 1, 2：産官学若手研究者をつなぐキャリアの橋 ―学生だった私、研究者になった私―

## 7. 一般演題募集

- 1) 一般演題（口演およびポスターでの発表）を募集しています。  
主発表者（プレゼンター）は本学会会員に限りませんので非会員の方は、日本毒性学会事務局にて入

会の手続きをお願いします。

日本毒性学会ホームページ：<https://www.jsot.jp>  
 なお、ポスターとスライド作成は、原則英語となります。(口頭発表及び討論は日本語で構いません。英語による発表・議論も可です)

- 2) 演題登録はインターネットを利用したオンライン登録のみです。下記8に記載する「演題登録要領」を参照の上、年会ホームページから登録して下さい。

**演題申込締切日：**

**2026年3月4日(水)**

- 3) 一般演題は口演またはポスター発表とします。口演発表につきましては、発表と討論の時間を合わせて10～15分程度を予定しています。詳細は、演題申込数を考慮の上、決まり次第発表者へE-mailにてお知らせいたしますので、ホームページなどで随時ご確認下さい。発表方法は液晶プロジェクターのみです。ポスター発表は、毎日貼替えてポスター展示を行い、途中で質疑応答時間を設けます。

- 4) 優秀研究発表賞応募演題  
2026年3月31日時点で40歳以下の方を対象として候補者を募集します。

応募者は演題申込時にその旨登録して下さい。  
 応募者はポスター発表に加え、別会場で口頭発表と質疑応答を第1日目(7月1日(水))に行っていただきます。受賞者の発表は第2日目、授賞式は第3日目に行う予定です。受賞者には、賞状と副賞を授与します。

- 5) 学生ポスター発表賞応募演題  
学術年会(2026年7月1日(水))の時点で学生(大学院生を含む。ただし社会人大学院生は除く。)のポスター発表(筆頭著者)の方を対象とします。

応募者は演題申込時にその旨登録して下さい。  
 審査はポスター発表内容のみで行います。対象のポスターは第1日目(7月1日(水))に掲示し、受賞者の発表は第2日目、授賞式は第3日目に行う予定です。受賞者には、賞状と副賞を授与します。

※上記、4)、5)の賞への重複申請は不可とします。

## 8. 演題登録要領

演題登録はインターネットを利用したオンライン登録のみです。締め切り間際はアクセス集中によりサーバー処理能力が極端に低下します。そのため、登録に時間を要する、あるいは登録が完了できないといった事態が生じることが予測されますので、演題募集要領と年会ホームページを熟読した上で、余裕をもって登録して下さい。

### ◆登録方法ならびに登録確認・修正◆

年会ホームページにアクセスし、演題募集のメニューより案内に従って、次の流れのように登録を進めて下さい。  
 なお、演題登録は発表者本人が行って下さい。

発表者個人情報登録→一般演題登録→共著者・演題情報登録→登録内容確認→登録完了

#### 1) 発表者個人情報登録

発表者は本学会会員に限ります。登録には会員番号(5桁)が必要です。

パスワード(半角英数)は登録内容の確認や変更を行うときに使用します。4文字以上10文字以内で入力して下さい。なお、パスワードはメニューページの「パスワードを変更する」より変更することが可能です。入力したパスワードは各自で大切に記録・保管して下さい。

#### 2) 共著者・演題情報登録

##### 2-1) 共著者情報登録

共著者の氏名・所属を入力して下さい。

共著者数は最大20名、所属機関名は最大15施設まで登録可能です。

##### 2-2) 演題カテゴリー登録

詳細については、年会ホームページをご確認下さい。

##### 2-3) 発表形式

発表形式を「口演」、「ポスター」、「どちらでも可」の中から選択して下さい。優秀研究発表賞もしくは学生ポスター発表賞に応募する場合は「ポスター」を選択して下さい。

優秀研究発表賞もしくは学生ポスター発表賞への応募の有無を選択して下さい。

##### 2-4) 演題名

文字数について、登録ページの入力欄には、文字数制限がありません。下記を目処にお願いします。

日本語演題名 文字数：  
最大全角 80 文字（スペース含め）  
英語演題名 文字数：  
最大半角 200 文字（スペース含め）

なお、演題名に特殊文字／上付き／下付き／  
ボールド／イタリックなどの文字を含む場合  
には、下記ページの HTML タグを使用し、  
入力をして下さい。

ただし、この HTML タグは、上記文字数に  
はカウントしません。

〈タグ一覧／特殊文字一覧／よく使用する特殊文字ページ〉  
[http://www.senkyo.co.jp/tag/ja/tag\\_list.html](http://www.senkyo.co.jp/tag/ja/tag_list.html)

## 2-5) 要旨作成要領

日本語及び英語の要旨のご提出をお願いし  
ております。本文の文字数は、日本語：全  
角として 800 字以内、英語：半角として  
800～1600 字以内（スペース含む）です。  
英語要旨は半角 800 字以上でご登録下さ  
い。800 字未満の場合はエラーとなります。  
また、上記文字数を超えると登録できませ  
んので、ご注意下さい。本文中に演題名・  
所属・氏名・図表等を入れないで下さい。

## 2-6) 利益相反

年会ホームページの演題募集のページにて  
COI 規程をご確認の上、演題登録時に COI  
の有無を選択して下さい。

## 3) 登録内容確認・修正

登録の最後に登録情報の確認画面が表示されま  
すので、内容を確認・修正して下さい。後日改  
めて確認・修正を行う場合は、登録時に入力し  
たパスワードを用いて確認・修正画面を表示さ  
せることができます。

## 4) 登録完了

登録が完了すると演題登録番号が表示されま  
す。登録したメールアドレス宛てに演題登録完  
了メールが送信されますので確認して下さい。  
翌日まで経過してもメールが届かない場合は事  
務局までご連絡下さい。

## 9. 参加登録および参加費

事前参加申込締切日：  
2026 年 5 月 15 日（金）

### 1) 参加費

※学会会員の参加費は「不課税」、関連学会会員、  
非会員の参加費と情報交換会費は「課税（消  
費税込）」となります。

カテゴリー	事前参加 登録	当日参加 登録
会員	15,000 円	20,000 円
学生会員	5,000 円	5,000 円
関連学会会員 *1	15,000 円	20,000 円
非会員	20,000 円	25,000 円
情報交換会費（一般）	10,000 円	15,000 円
情報交換会費（学生）	5,000 円	5,000 円

\*1 次の学会会員の方です。（協賛学会 50 音順）

共催：日本中毒学会

日本毒性病理学会

日本免疫毒性学会

日本薬理学会

Society of Toxicology

Asian Society of Toxicology (ASIATOX) \*

\* ASIATOX 加盟毒性学会のいずれかの会員

協賛：安全性評価研究会

日本安全性試験受託研究機関協議会

日本安全性薬理研究会

日本医薬品情報学会

日本衛生学会

日本環境毒性学会

日本環境変異原ゲノム学会

日本産業衛生学会

日本実験動物学会

日本獣医学会

日本食品衛生学会

日本食品化学学会

日本先天異常学会

日本動物実験代替法学会

日本内分泌攪乱物質学会（環境ホルモン学会）

日本薬学会

日本薬物動態学会

比較眼科学会

2) お支払い方法

- ・クレジットカード

※年会参加費には、下記が含まれます。

- ・年会参加証
- ・年会プログラム集（冊子体）（会場で配布予定）
- ・年会プログラム要旨集（PDF）
- ・年会参加費領収証（参加費お支払い完了後にメニューページよりダウンロード可能になります）
- ・参加証明証（会期後にメニューページよりダウンロード可能になる予定です）

※情報交換会費には、下記が含まれます。

- ・情報交換会参加証
- ・情報交換会参加費領収証（参加費お支払い完了後にメニューページよりダウンロード可能になります）

10. 情報交換会

以下の通り情報交換会を開催いたしますので、是非ご参加下さい。

日程：2026年7月2日（木）18:30～（予定）

会場：リーガロイヤルホテル大阪

URL：<https://www.rihga.co.jp/osaka>

11. 展示、ランチョンセミナーなどの募集

展示、ランチョンセミナー、広告掲載を募集しております。詳細については年会ホームページをご覧ください。

12. 託児室

本年会では、参加者が無料で利用できる託児室を設置いたします。

詳細は年会ホームページにてご案内いたします。

13. 年会事務局

〒554-0022 大阪市此花区春日出中 3-1-98

住友ファーマ株式会社 前臨床研究ユニット

事務局長：臼井 亨（住友ファーマ株式会社）

事務局：宮内 慎（株式会社ファイントゥデイ）

近藤 美和（住友化学株式会社）

E-mail: [secretariat@jsot2026.jp](mailto:secretariat@jsot2026.jp)



## 日本毒性学会教育委員会からのお知らせ（第 1 報）

教育委員会の各種事業は下記の要領で実施する予定です。詳細は決まり次第、学会ホームページおよび毒性学ニュースでお知らせします。

なお、学会主催講習会は、トキシコロジーに関する知識（基礎知識）を幅広く学習する基礎教育講習会とトキシコロジストとしての知識をアップデート・ブラッシュアップする生涯教育講習会として位置付けすることを基本方針として開催いたします。

### 「第 29 回日本毒性学会基礎教育講習会」

本講習会はトキシコロジストの系統的な基礎教育あるいは再教育を目的としております。また、トキシコロジー全般にわたる理解を深めたくため、日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験受験にお役立て下さい。講習は動画配信形式で行います。受講者の皆様には 4 月下旬にダウンロード方法をご案内いたします。

#### 1. 配信期間（予定）

2026 年 4 月 23 日（木）～ 2027 年 3 月 31 日（火）

#### 2. 形 式

オンデマンド動画配信

#### 3. 申 込

##### 1) 申込期間

2026 年 2 月 3 日（火）～ 3 月 31 日（火）

##### 2) 申込方法

当学会ホームページよりお申込下さい。

登録後、期限内に受講料を納入下さい。

受講料入金の確認後追って受講案内をお送りします。

#### 4. 受講料

一般会員：25,000 円      学生会員：5,000 円

非会員：30,000 円      学生非会員：8,000 円

認定トキシコロジスト：20,000 円

団体契約：25,000 円

\*領収書宛名のご指定がある場合は、申込時に入力下さい。

\*キャンセルに伴う返金に関しては、講習会資料事前案内前に限り、対応します。事務局から案内後は納入済み受講料の返金は原則として致いたしませんのでご了承下さい。

\*申込者ご本人のみの受講となります。

\*ダウンロード映像、資料の二次利用は固くお断りいたします。

#### 5. その他

\*受講修了者にはアンケート回答後に受講証明書を発行します。

#### 【団体契約について】

同一企業あるいは団体に所属する複数名が同時に受講する場合にお申込み下さい。申込は通年受け付けております。

本契約での動画視聴は、団体内での体系的な毒性学教育目的（新人 / キャリア研修など）や大学等の教育機関での利用を想定しています。団体契約は代表者個人（毒性学会会員に限る）が申し込み、年間（年度）視聴権を得ます。代表者同席のもと複数人が同時視聴することを認めます（研修や講義のサポート教材としての利用を想定）。

※本契約で受講された場合は、受講証明書は発行されません。

認定トキシコロジスト試験 受験・更新資格のための評点として加算されませんので、ご注意ください。

### 「第 27 回日本毒性学会生涯教育講習会」

本講習会では、学習フレームを、①トピック、②トキシコロジスト・ブラッシュアップセミナーとして実施しております。本年も同様のフレームで開催を予定しておりますので、是非、積極的なご参加をお待ちしております。

トピックスは、SOT の学術年会時に開催される教育コースから、2 つのテーマを選び、新しい科学及び技術に関する最新のトピックスを学習する場としていきます。トキシコロジスト・ブラッシュアップセミナーでは、各種毒性反応について基礎メカニズムから社会的に最新の毒性学の話題を含め深く学習



する場としていきます。また、学習テーマに関連する共通知識として「非病理学者のための病理学講義」をセミナーに組み入れていきます。講習会資料はダウンロード形式としております。受講者の皆様には別途ダウンロード方法をご案内いたします。

#### 1. 日 時

2026 年 6 月 30 日 (火)

時間未定

#### 2. 形 式 ・ 場 所

現地開催予定

#### 3. プログラム (仮)

##### 1) トピックス SOT2026

松村匠悟先生 (アステラス製薬株式会社)

[AM 06] Systematic Methods for AOP Development and Application: New Technologies and Tools

香川 雄輔先生 (ノバルティス ファーマ株式会社)

[PM 10] This Is Real: How AI Can Actually Be Used in Hazard and Risk Assessments

##### 2) トキシコロジスト・ブラッシュアップセミナー: 講演内容・講師検討中

#### 4. 申 込 (予定)

##### 1) 2026 年 4 月 1 日 (水) ~ 5 月 31 日 (日)

##### 2) 申込方法

当学会ホームページよりお申込下さい。登録後、期限内に次項の要領で受講料を納入下さい。受講料入金の確認後追って受講案内をお送りします。

##### 3) 納入方法

ホームページよりお申込の上、下記銀行口座へお振込み下さい。

銀行：みずほ銀行

支店：麹町支店 (021)

口座番号：普通 1348658

口座名義：一般社団法人日本毒性学会

\* 振込手数料はご負担ください。

\* ご所属名でお振込みの際は、事務局までメールで受講者氏名 (会員の方は会員番号)、所属、振込日、振込金額をご連絡下さい

#### 5. 参加費 (予定)

会 員：9,000 円

非会員：18,000 円

認定トキシコロジスト：6,000 円

#### 「第 29 回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験」

我が国の安全性試験の信頼性向上とトキシコロジーの進歩に寄与するため、質の高い専門家を認定するための試験です。受験資格の詳細については、毒性学ニュース及び学会ホームページの『一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程』をご覧ください。日本語・英語いずれかの受験になります。英語受験を希望する場合は、願書の英語受験希望欄にチェックを入れてください。

#### 1. スケジュール

2026 年 11 月予定

#### 2. 会 場 (予定)

専修大学 神田キャンパス

#### 3. 受験料

30,000 円

#### 「認定トキシコロジスト資格の更新」

2006 年、2011 年、2016 年、2021 年に認定トキシコロジストに認定された方となります。詳細は 2026 年 4 月頃にメールをお送りいたしますのでご確認ください。毒性学ニュース、学会ホームページの『一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則』をご覧ください。

#### 「認定トキシコロジスト試験問題作成依頼について」

資格更新のための試験問題作成の依頼の詳細につきましては、2026 年 7 月頃にご案内いたします。

## 第52 回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について

第 52 回日本毒性学会学術年会の要旨集（日本語版または英語版）を 3,500 円（税・送料込）で販売します。ご希望の方は郵便局に備付けの郵便振替用紙に必要事項をご記入の上、下記口座までお振り込み下さい。ご納入確認後、要旨集を発送致します。

なお、学術年会（第 32 回以降）の要旨はオンライン（J-STAGE）でも閲覧が可能です。

振込先：口座番号	00150-9-426831
加入者名	一般社団法人日本毒性学会
要旨集価格	3,500 円（日本語版または英語版 各 1 部）

通信欄記入事項：①住所②氏名（団体の場合は機関名・部署等）③電話番号  
④第 52 回学術年会要旨集希望の旨（記入例：日本語版 1 部希望）

※通信欄のご記入住所へ送付いたします。詳細なご記入をお願いいたします。

問い合わせ先：一般社団法人 日本毒性学会  
〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町 23-2 之ビル 5F  
（株）センキョウ東京オフィス内  
TEL：03-6206-9650 FAX：03-6206-9651  
E-mail：jsotq@jsot.jp

## 社員総会開催のご案内と出欠票（委任状）提出のお願い

一般社団法人 日本毒性学会

社員（一般会員及び学生会員）各位

平素より日本毒性学会の活動、運営にご協力を賜り御礼申し上げます。

定款第 21 条に定められております「定時社員総会」を学術年会期間中に開催いたします。

本学会は一般社団法人ですので、関連法令に基づき重要な案件は社員総会で決定する必要があります。社員（一般会員及び学生会員）各位におかれましては、ご出席賜りますようご案内申し上げます。

また、ご出席・ご欠席に係わらず「出欠票（委任状）」を、電磁的総会出欠（委任状）回答システムにより事前にご提出下さい。なお、本委任状回答システムへの入力のご案内は本年 4 月以降にメール等にてご連絡させていただく予定です。

社員総会の決議には、定款第 24 条に定められておりますように、総社員（一般会員及び学生会員）の議決権の過半数を有する社員の出席が必要です。社員総会出席者数（委任状含む）が過半数に満たない場合は、重要な議決事項が決定できず、本学会の運営に大きな支障を来すことになります。社員総会にご欠席される場合には、必ず委任状をご提出されますよう、重ねてお願い申し上げます。

また、お近くの会員の方に、社員総会へのご参加または委任状のご提出をお勧めくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

### 記

2026 年度 一般社団法人日本毒性学会 社員総会

日 時：2026 年 7 月 2 日（木） 14 時 30 分～16 時 10 分（予定）

場 所：第 53 回日本毒性学会学術年会 第 1 会場（グランキューブ大阪 10F「1003」）

議 案：1. 2025 年度事業報告および収支決算

2. 2026 年度事業計画および収支予算

3. その他

以上

2026 年 2 月 1 日

一般社団法人日本毒性学会

理事長 広瀬 明彦

## オピニオン

### 衛藤氏による「高岡氏への提言」の意味するもの

高岡 滋

神経内科リハビリテーション協立クリニック

2023 年、衛藤光明氏は、毒性学ニュース誌「オピニオン」<sup>1)</sup>にて、自著「水俣病と医学の責任」に対する「反論」を行った。

それに対し、私は、「衛藤光明氏の自著に対する反論に答える」（以後、「前著」と略記）<sup>2)</sup>で、衛藤氏の「反論」について、①「間引き脱落」の定義、②毒性学における診断プロセス、③水俣病における臨床所見と病理所見の位置づけ、④神経可塑性の諸点に関する問題点を指摘した<sup>2)</sup>。

更に、衛藤氏は、「毒性学ニュース『オピニオン』に掲載された高岡氏へ提言」<sup>3)</sup>の投稿を行った。この中で衛藤氏は「前著」で私が指摘した上記問題点に対して明確に回答することなく、旧来の持論を展開している。衛藤氏の1)～3)の主張の持つ意味について解説する。

1)において、衛藤氏は、故生田房弘医師の剖検所見で、「グリア細胞の増加を伴う神経細胞の間引き脱落が認められています」と主張する<sup>3)</sup>。しかし、衛藤氏自身も生田氏もグリア細胞の増加を伴わない間引き脱落の存在を認めていたという、私の「前著」の記述に対する説明がなされていない。

2)での問題は、衛藤氏の「自らの剖検症例の経験から病理診断がなされた」という主張<sup>3)</sup>の是非ではない。私は、「前著」で、「剖検診断がなされなかった症例は水俣病でないと断定できるのか?」、「19例は水俣病ではないと断定できるのか?」と問うたのである<sup>2)</sup>。この問いに対する回答は「前著」で既に示したが、衛藤氏は私の回答を無視している。このことは、衛藤氏らが病理学の研究を開始した1970年代以降、「前著」で紹介した中毒性疾患のリスク評価や診断方法などが、本来のあり方にアップデートされていないことを示している。

3)において、衛藤氏は、私が「症状の重症度の変動が神経細胞の修復によるもの」と主張したとしている<sup>3)</sup>が、それは正確ではない。私は「前著」で、「間引き脱落では、症候は変動しやすく、可塑性も働きやすい」と記述したのであり、これは論理のすり替えである。類似の論法は、衛藤氏が共著者となった日本衛生学雑誌における自著に対する「書評」<sup>4)</sup>でも使われている<sup>5)</sup>。

このように、衛藤氏の「提言」は、誠実な医学議論のあり方とは言えない。そして、環境汚染物質による健康障害の評価・診断方法の基本と、水俣病診断における病理学の正しい位置づけに立ち帰ることが困難であることを示している。

1) 衛藤光明 (2023) 高岡滋氏の著書に対する反論 - 水俣病の病理学的研究に携わったものとして - . 毒性学ニュース, 48(5), 110-113.

2) 高岡滋 (2025) 衛藤光明氏の自著に対する反論に答える . 毒性学ニュース, 50(2), 24-29.

3) 衛藤光明 (2025) 毒性学ニュース「オピニオン」に掲載された高岡氏へ提言 . 毒性学ニュース, 50(3), 43.

4) 二塚信, 衛藤光明, 内野誠 (2023) 『水俣病と医学の責任』を読んで . 日本衛生学雑誌, 78(23002), 1-4.

5) 高岡滋 (2024) 書評「『水俣病と医学の責任』を読んで」への回答 . 日本衛生学雑誌, 79(24005), 1-9.

(この論説は毒性学に関する著者の見解であり、日本毒性学会の公式見解を掲載しているものではありません。)

## その他のお知らせ

### 「製薬協主催・第2回 バーチャル対照群（VCG）セミナー」開催案内

日本製薬工業協会  
医薬品評価委員会 基礎研究部会  
部会長 鈴木 睦

平素より日本製薬工業協会 医薬品評価委員会 基礎研究部会の活動にご理解、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

昨年10月に開催した第1回バーチャル対照群（VCG）セミナーは、現地及びウェブ参加を含めて約350名の方々にご参加いただき、大変な盛況を博しました。事後アンケートからも、VCGが現在非常に注目されているトピックであることが示され、継続的な情報提供を求める声が多く寄せられました。これを受けて、日本製薬工業協会 医薬品評価委員会 基礎研究部会では、昨年度に引き続き、国立研究開発法人 日本医療研究開発機構（AMED）研究班「医薬品の品質及び安全性確保のための評価手法等に係る国内基盤と国際調和の推進に資する研究（24mk0121281j0001）」の分班「今後の非臨床安全性評価の課題に関する研究」班との共同により、第2回VCGセミナーを企画いたしました。近年、欧州を中心にVCG導入に向けた議論がさらに進んでおります。2025年7月に開催された日本毒性学会学術年会でも、VCGに関連する演題を連日耳にして、国内においても関心が高まっているのを感じます。VCGは、既存の背景データを活用して対照群の役割を果たすことで、動物使用数の削減を可能にする革新的なアプローチであり、3Rsの推進や倫理的配慮の観点からも注目されています。FDAのロードマップに示される新たな評価手法（NAMs）や、毒性試験の変革を促すDDT（Drug Development Tools）などのキーワードが注目される中、新薬開発における動物試験の縮小が現実味を帯びてきており、VCGはその流れに沿った重要な技術と位置づけられます。

最初の演題では、製薬協として何を目指してVCG関連活動を行っているか皆さんと情報共有します。次に、VCGのレトロスペクティブな検討において、しばしば統計学的結果の再現性が課題として挙げられることから、統計学的な課題に焦点を当てて、統計専門家2名をお招きました。お一人目には安全性試験における統計の基礎（仮）についてお話しいただき、現在の統計学的評価に至った経緯などあらためて振り返ってみたいと思います。それを踏まえて、お二人目にVCGの検討で課題とされる統計の再現性について、専門家のご意見を伺います。後半は、大動物試験におけるVCGについて、製薬協のVCG検討チームからお話しします。さらに、規制当局の立場から現状VCGをどのように考えるかを、PMDAよりご説明いただきます。

本セミナーを通じて、参加者の皆様がVCGに関する理解を深め、それぞれの立場で課題を主体的に捉える契機と

なることを期待しております。ご多忙の折とは存じますが、ぜひご参加をご検討くださいますようお願い申し上げます。

開催案内詳細：[https://www.jsot.jp/news/data/related\\_organizations/20251218.pdf](https://www.jsot.jp/news/data/related_organizations/20251218.pdf)

主催：日本製薬工業協会 医薬品評価委員会 基礎研究部会（AMED「今後の非臨床安全性評価の課題に関する研究」分班との共同企画）

開催日時：2026年2月16日（月）13:00～16:45

開催形式：ウェブ開催（WebEx）

参加費：無料

事前参加登録：不要（当日、リンクからセミナーにご参加ください：<https://jpma-or.webex.com/jpma-or/j.php?MTID=mb4e8d17973e8767caade61c33a59592b>）

ウェビナー番号：2517 928 3913

ウェビナーパスワード：20260216

対象者：規制当局、メーカー（製薬、農薬、化学等）、非臨床CRO、アカデミア、ITベンダー、ブリーダー等

注意事項：セミナー当日、WebExへのアクセスに関するお問い合わせは受け付けることができません。あらかじめご了承ください。また、セミナーの録音、録画、撮影等はご遠慮下さい。

#### プログラム：

13:00-13:05

はじめに

鈴木 睦（製薬協 医薬品評価委員会 基礎研究部会 部会長；協和キリン）

13:05-13:25

製薬協 VCG 関連活動の目指す方向（仮）

佐藤 玄（製薬協；エーザイ）

13:25-14:15

安全性試験における統計の基礎（仮）

福島 慎二（タクミインフォメーションテクノロジー）

14:15-15:05

対照群の選択と Historical Data 利用時の留意事項

山田 雅之（キッセイ薬品工業）

15:05-15:25

（休憩）

15:25-16:00

大動物試験におけるバーチャル対照群とは？（仮）

黒岡 貴生（製薬協；EA ファーマ）

16:00-16:30

VCGについて：規制当局の立場から（仮）

西村 次平（PMDA）

16:30-16:45

さいごに

平林 容子（国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター長；国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 医薬品の品質及び安全性確保のための評価手法等に係る国内基盤と国際調和の推進に資する研究班代表）

**事後アンケート・発表資料の希望：**

セミナー終了後、下記リンクより事後アンケートにご協力をお願いします。2月16日（月）～2月27日（金）の間にご入力ください。お寄せいただいた感想や質問等は、各演者にフィードバックします。

発表資料の入手をご希望される方も、上記期間中に下記リンクより連絡先をご登録ください（提供可能な資料のみとなります：<https://forms.office.com/r/fJxGGaZwrK>）。

**お問い合わせ先：**

日本製薬工業協会 医薬品評価委員会 基礎研究部会  
安全性評価体系 課題対応チーム

佐藤 玄（VCG セミナー窓口）

E-mail：g-sato@hhc.eisai.co.jp



# 一般社団法人日本毒性学会の定款および規程類について

日本毒性学会の定款および規程類については、最新版が学会ホームページ（[http://www.jsot.jp/about/rule\\_list.html](http://www.jsot.jp/about/rule_list.html)）に掲載されています。

2022年9月2日付で「研究倫理要綱」と「研究倫理問題に関する規程」が新たに制定されました。学会ホームページでご確認をお願いします。

## 一般社団法人日本毒性学会 定款

一般社団法人日本毒性学会 研究倫理要綱

一般社団法人日本毒性学会 研究倫理問題に関する規程

一般社団法人日本毒性学会 動物実験に関する指針

一般社団法人日本毒性学会 入会規程

一般社団法人日本毒性学会 賛助会員に関する規程

一般社団法人日本毒性学会 名誉会員・功労会員推薦規程

一般社団法人日本毒性学会 評議員選出規程

一般社団法人日本毒性学会 理事・監事選出規程

一般社団法人日本毒性学会 理事および監事候補の選出に関する細則

一般社団法人日本毒性学会 常置委員会共通規程

一般社団法人日本毒性学会 部会に関する規程

J. Toxicol. Sci. 投稿規程

Fundam.Toxicol.Sci. 投稿規程

一般社団法人日本毒性学会 学会賞選考規程

一般社団法人日本毒性学会 特別賞選考規程

一般社団法人日本毒性学会 佐藤哲男賞（国際貢献賞）選考規程

一般社団法人日本毒性学会 学会貢献賞選考規程

一般社団法人日本毒性学会 奨励賞選考規程

一般社団法人日本毒性学会 技術賞選考規程

一般社団法人日本毒性学会 田邊賞選考規程

一般社団法人日本毒性学会 ファイザー賞選考規程

一般社団法人日本毒性学会 日化協 LRI 賞選考規程

一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの認定制度規程

一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの資格更新に関する細則

一般社団法人日本毒性学会 名誉トキシコロジスト表彰に関する細則

一般社団法人日本毒性学会 米国毒性学会教育コースへの学会員派遣に関する規程

一般社団法人 日本毒性学会 個人情報の適正な管理・利用等に関する基本方針

# Shin Nippon Biomedical Laboratories, Ltd.

創薬と医療技術の向上を支援し、

人類を苦痛から解放することを

絶対的な使命とします



(株)新日本科学は60年以上にわたる

豊富な経験と実績に裏付けされた確かな技術力により

質の高いサービスとニーズに合わせたソリューションを提供します



株式会社新日本科学

<https://snbl.com>

mail: [info@snbl.com](mailto:info@snbl.com)



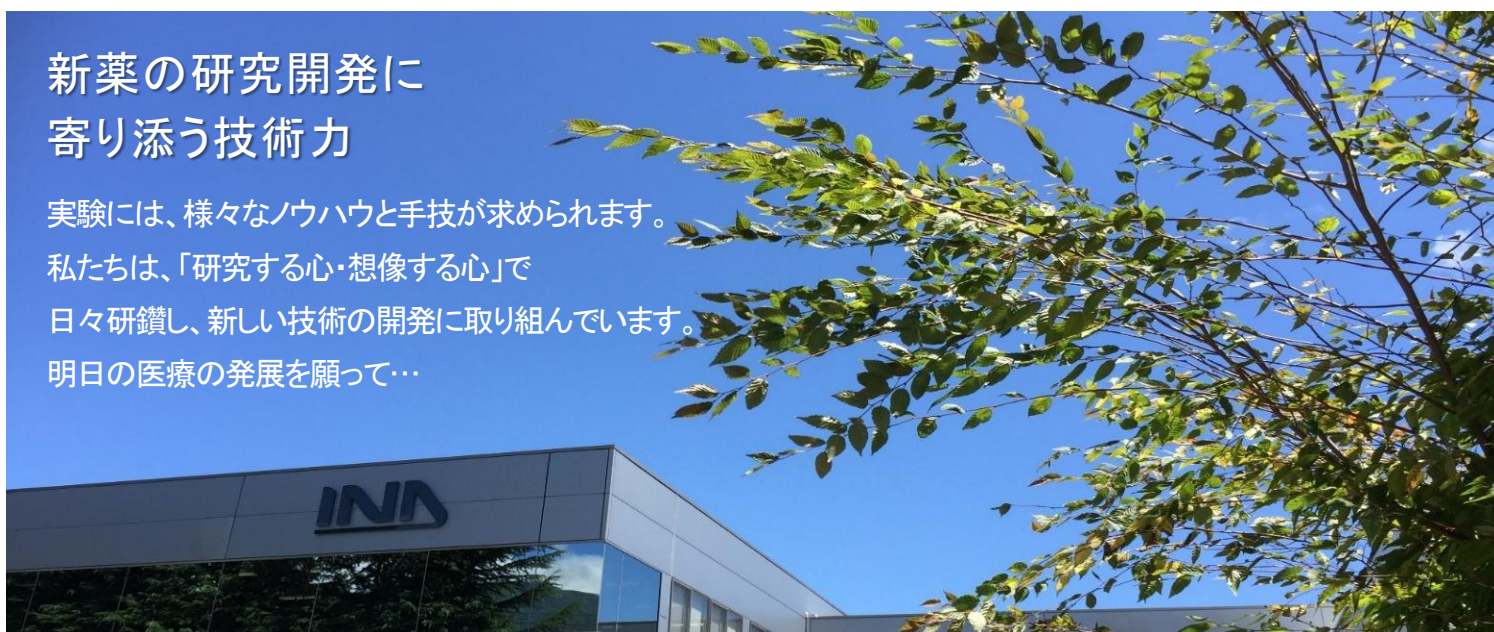
## 新薬の研究開発に 寄り添う技術力

実験には、様々なノウハウと手技が求められます。

私たちは、「研究する心・想像する心」で

日々研鑽し、新しい技術の開発に取り組んでいます。

明日の医療の発展を願って…



医薬品・医療機器・再生医療等製品の開発支援  
各種GLP適合・AAALAC International 完全認証施設

・安全性試験 ・薬効試験 ・各種検査  
・臨床試験 ・翻訳サービス ・SENDサービス

株式会社新日本科学イナリサーチセンター

<https://www.ina-research.co.jp>

# SLCの実験動物



## マウス

- **アウトブリード**  
Slc : ddY  
Slc : ICR
- **インブリード**  
DBA/1JmsSlc(コラーゲン薬物誘導関節炎)  
BALB/cCrSlc  
C57BL/6NCrSlc・C57BL/6JmsSlc(J由来)  
C3H/HeSlc  
C3H/HeNSlc  
C3H/HeYokSlc  
DBA/2CrSlc  
NZW/NSlc  
A/JmsSlc  
AKR/NSlc  
NC/NgaSlc(薬物・アレルギー誘導アトピー性皮膚炎)  
CBA/NSlc  
129x1/SvJmsSlc
- **B10コンジェニック**  
C57BL/10SnSlc  
B10.A/SgSnSlc・B10.BR/SgSnSlc  
B10.D2/nSgSnSlc・B10.S/SgSlc
- **ハイブリッド**  
B6D2F1/Slc(Slc:BDF1)  
CB6F1/Slc(Slc:CBF1)  
CD2F1/Slc(Slc:CDF1)  
B6C3F1/Slc(Slc:B6C3F1)  
(NZWx)BXSb)F1/Slc受注生産  
※上記以外の系統については御相談ください。
- **ヌードマウス(ミュータント系)**  
BALB/cSlc-*nu*(*Foxn1<sup>nu</sup>*)  
KSN/Slc(*Foxn1<sup>nu</sup>*)
- **疾患モデル**  
BXSB/MpJmsSlc-*Yaa*(自己免疫疾患)  
C3H/HeJmsSlc-*lpr*(自己免疫疾患・*Fas<sup>lpr</sup>*)  
C57BL/6JmsSlc-*lpr*(自己免疫疾患・*Fas<sup>lpr</sup>*)  
MRL/MpJmsSlc-*lpr*(自己免疫疾患・*Fas<sup>lpr</sup>*)  
NZB/NSlc(自己免疫疾患)  
NZBWF1/Slc(自己免疫疾患)

WBB6F1/KiI-Ki<sup>hi</sup>/KiI<sup>hi</sup>/Slc(肥満細胞欠損貧血・KiI<sup>hi</sup>/KiI<sup>hi</sup>)  
NC/Nga(皮膚炎)  
★ SAMR1/TaSlc(非胸腺リンパ腫・SAM系対照動物)  
★ SAMP1/SlcSlc(老化アミロイド症)  
★ SAMP6/TaSlc(老年性骨粗鬆症)  
★ SAMP8/TaSlc(学習・記憶障害)  
★ SAMP10/TaldSlc(脳萎縮・うつ様行動)  
AKITA/Slc  
C57BL/6HamSlc-*ob/ob*(肥満・2型糖尿病・*Lepr<sup>ob</sup>*)  
HIGA/NscSlc(IgA腎症)  
B6KOR/StmSlc-Apoe<sup>u</sup>(アポE欠損高脂血症・Apoe<sup>u</sup>)  
C.KOR/StmSlc-Apoe<sup>u</sup>(アポE欠損高脂血症・Apoe<sup>u</sup>)

## ラット

- **アウトブリード**  
Slc : SD  
Slc : Wistar  
Slc : Wistar/ST
- **インブリード**  
F344/NSlc  
BN/SnSlc  
LEW/SnSlc(薬物誘導性関節炎)
- **ヌードラット**  
Slc : Long-Evans-*rrnu/rnu*
- **疾患モデル**  
★ SHR/Izm(高血圧)  
★ SHRSP/Izm(脳卒中)  
★ WKY/Izm(SHR/Izmのコントロール)  
★ SHRSP5/Onmr(NAASHモデル[HFC飼料給餌])  
DIS/EisSlc(食塩感受性高血圧症)  
DIR/EisSlc(食塩抵抗性)  
Slc : Zucker-*fa/fa*(肥満・*Lepr<sup>fa</sup>*)  
HWY/Slc(ヘアレスラット)

## モルモット

- **アウトブリード**  
Slc : Hartley

## ウサギ

- **アウトブリード**  
Slc : JW/CSK  
Slc : NZW

## ハムスター

- **アウトブリード**  
Slc : Syrian

## スナネズミ

- **インブリード**  
MON/Jms/GbsSlc

## 無菌動物

- **インブリードラット**  
F344/NSlc(GF)
- **インブリードマウス(三協ラボサービス株)**  
Tsl : C57BL/6NCr

## 遺伝子改変動物

- **マウス**  
C57BL/6-Tg(CAG-EGFP)(グリーンマウス)  
C57BL/6JmsSlc-Tg(*gpt* delta)  
BALB/c *Rag-2<sup>-/-</sup>Jak3<sup>-/-</sup>*(高度免疫不全)
- **ヌードマウス**  
C57BL/6-BALB/c-*nu/nu*-EGFP(EGFP全身発現ヌードマウス)
- **ラット**  
SD-Tg(CAG-EGFP)(グリーンラット)  
★ Slc:SD-Tg(SOD1H46R-4)
- **疾患モデル**  
★ APPSK-Tg[C57BL/6-Tg(*APP<sup>SK</sup>*)](オリゴマー蓄積-老人斑形成なし)  
★ APPWT-Tg[C57BL/6-Tg(*APP<sup>WT</sup>*)](APPSKの対照動物)  
★ Tau609 Tg[C57BL/6-Tg(*tau609*)](タウ病理)  
★ Tau784 Tg[C57BL/6-Tg(*tau784*)](タウ病理)  
★ Tau264 Tg[C57BL/6-Tg(*tau264*)](Tau609・Tau784の対照動物)  
— ノックインマウス —  
★ OSK-KI[C57BL/6-Tg(*OSK-KI*)](マウスAβを産生)  
(特許第6323876号)
- (株)星野試験動物飼育所
- **アウトブリードマウス**  
Hos : HR-1(ヘアレス)
- **ハイブリッドマウス**  
Hos : HRM2(メラニン保有)

- **アウトブリードラット**  
Hos : OLETF(2型糖尿病)  
Hos : LETO(OLETFの対照動物)  
Hos : ZFDM-*Lepr<sup>ob</sup>*(2型糖尿病)

## (一財)動物繁殖研究所

- **インブリードマウス**  
IVCS(4日性周期)  
C57BLKS/Jlar-*Lepr<sup>ob</sup>*/*Lepr<sup>ob</sup>*(肥満2型糖尿病)  
TSOD(肥満2型糖尿病)

- **アウトブリードラット**  
lar : Wistar-Imamichi  
lar : Long-Evans

## エンヴィーゴ(旧ハランOEM生物動物)

- **アウトブリードラット**  
★ RocHan® : WIST

- **インブリードマウス**  
★ CBA/CaOlaHsd

- **免疫不全モデルマウス**  
★ C.B-17/*IcrHsd-Prkdc<sup>scid</sup>*

## その他(conventional動物)

- **ミニブタ**  
☆(一財)日生研・NPO法人医用ミニブタ研究所)
- **マイクロミニビグ**  
☆国内繁殖生産(富士マイクラ(株))
- **医学用ベビーブタ(SPF)SHIZUOKA EXPIG**  
☆静岡県畜産技術研究所中小家畜研究センター
- **ビーグル犬**  
☆国内繁殖生産((一財)動物繁殖研究所)
- **フェレット**  
自家繁殖生産(中伊豆支所)
- **コモンマーモセット**  
★印は受託生産動物、☆印は仕入販売動物です。



日本エス エル シー株式会社  
〒431-1103 静岡県浜松市中央区湖東町3371-8  
TEL(053)486-3178代 FAX(053)486-3156  
<http://www.jslc.co.jp/>

営業専用  
TEL

関東エリア (053)486-3155代  
関西エリア (053)486-3157代  
九州エリア (0942)41-1656代

○ 生体金属部会	部会長	浅沼	幹人
○ 医薬品毒性機序部会	部会長	北嶋	聡
○ 付加体科学部会	部会長	上原	孝

2026 年 2 月 1 日 印刷

2026 年 2 月 1 日 発行

発 行 人 広 瀬 明 彦  
編 集 人 鍛 冶 利 幸  
毒性学ニュース編集委員会委員長 古 武 弥一郎

発 行 所 一般社団法人日本毒性学会

学会事務局 〒 101-0042 東京都千代田区神田東松下町 23-2 之ビル 5F  
(株)センキョウ東京オフィス内  
一般社団法人日本毒性学会事務局  
TEL : 03-6206-9650 FAX : 03-6206-9651  
E-mail : jsotq@jsot.jp  
振替 00150-9-426831  
<http://www.jsot.jp>

印 刷 所 株式会社 センキョウ

〒 983-0035 仙台市宮城野区日の出町二丁目 4 - 2  
TEL (022) 236-7161